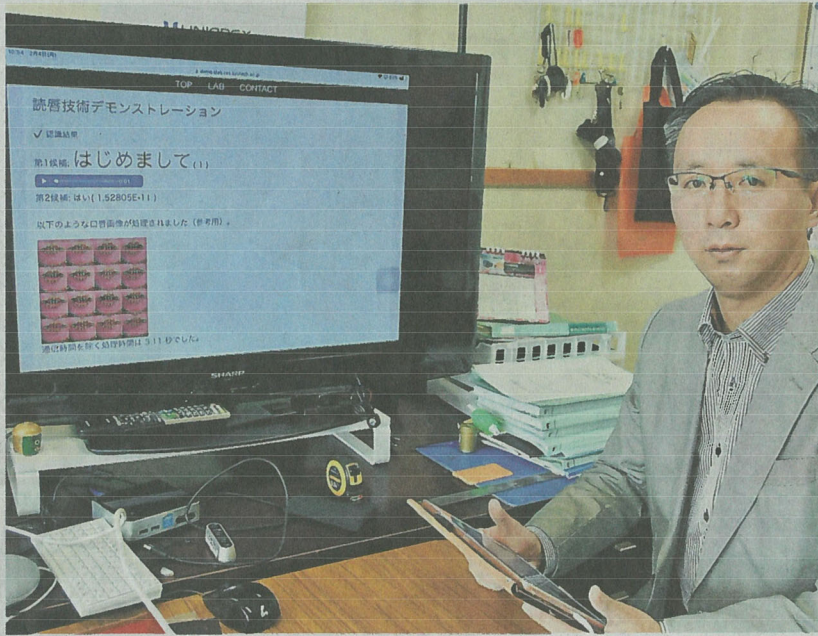


スマホで読唇 言葉推測

九州工業大学院情報工学研究院（飯塚市）の斉藤剛史准教授（42）は知能情報学Ⅱが、スマートフォンやタブレット端末のカメラに向けて話した言葉を動画配信すると、人工知能（AI）が唇の動きからその言葉を推測する読唇技術システムを開発した。斉藤准教授はシステムを体験してもらうため、インターネット上で公開しており、「病気などで音声コミュニケーションが困難な人に役立つ読唇技術を知ってほしい。多くの人に利用してもらい、データを研究に生かしたい」と話している。

AI活用システム公開

システムは病気や障害により声が出せない人などのために開発。AIが認識できるのは「ゼロ」から「きゅう」までの数字と、「あ



AIを活用した読唇技術システムを開発した九州工業大学院の斉藤剛史准教授

九工大・斉藤剛史准教授「精度高め障害者の役に」

は国内外で進んでいるが、これまででは、ビデオカメラを使い、顔を録画する際には白い壁を背景にして撮影するなど、一定の環境を整える必要があった。

斉藤准教授は、学生や院生の男女24人ずつに協力を求め、時間や場所を変えて各単語を発する様子をスマートフォンなどで撮影。一つの単語につき1人当たり30パターンを収集した。背景に本棚などがある室内でも単語が推測できるだけでなく、音声情報を用いないため、雑音がある道路や公園でも利用可能で、正答率は約70%という。

斉藤准教授の研究室のサイトでユーザー登録し、手順に従い、ビデオ撮影アプリで自然に話すように単語を動画撮影すると、画面上にその単語が出てくる。精度認識を向上させるには、多くのデータが必要のため、利用者の動画やAIの認識結果はシステム改良のために活用する。斉藤准教授は「今後、精度を高め単語数を増やすことで、障害者の役に立つシステムにしていきたい」と話した。

同サイト＝<https://demo.slab.ces.kyutech.ac.jp/>

（中川次郎）